



柴田 花音 SHIBATA Canon【チェロ】

2000年愛知県出身。第14回ビバホールチェロコンクール第1位。Robert W. and G. Ann Corcoran Concerto Competition 2022 グランプリ受賞(カナダ)。GGs Chamber Music Competition 2023 Duo 部門、Chamber Group 部門共に第1位(カナダ)。他受賞多数。2022年度・2023年度ロームミュージックファンデーション奨学生、第52回公益財団法人江副記念リクルート財団奨学生。これまでに林良一、野村友紀、山崎伸子、アンドレス・ディアス、ハンス・イエンセンの各氏に師事。トロント王立音楽院グレン・グールド・スクールを経て、現在、ノースウェスタン大学ビーネン音楽院へ特別特待奨学生として在学中。使用楽器は宗次コレクションより貸与された Giovanni Grancino(1694年製)、使用弓は西村賢治氏より貸与された Eugène Sartory。

◇今後の公演のお知らせ◇

Music Dialogue DUO プロジェクト

字幕実況解説付きリハーサル 2：2023年11月3日(金) 19:00 開始 @中目黒 GT プラザホール

本公演 2023年11月10日(金) 19:00 開演 @Hakuju Hall

演奏曲目 ラヴェル ヴァイオリンとピアノのためのソナタ 第2番 ト長調 M.77

ブラームス ピアノとヴァイオリンのためのソナタ 第2番 イ長調 作品100

サン＝サーンス ピアノとヴァイオリンのためのソナタ 第1番 二短調 作品75

出演者 水越菜生(ヴァイオリン)、白瀬元(ピアノ)、竹澤恭子(ヴァイオリン)、上田晴子(ピアノ)



Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2023-2024 2月公演

字幕実況解説付きリハーサル 2024年2月14日(水) 19:00 開始 @中目黒 GT プラザホール

本公演 2024年2月17日(土) 16:00 開演 @築地本願寺 講堂

演奏曲目 ベートーヴェン 弦楽五重奏曲八短調 Op.104

シエーンベルク 弦楽六重奏曲「浄夜」 Op. 4

出演者 前田妃奈(ヴァイオリン)、北田千尋(ヴァイオリン)、川本嘉子(ヴィオラ)、大山平一郎(ヴィオラ)、矢部優典(チェロ)、金子 鈴太郎(チェロ)

Dialogue in the Dark × Music Dialogue 暗闇音楽会 with 金子鈴太郎

完全に光を遮断した「純度100%の暗闇」の中でチェロ一本によって奏でられる音楽を聴く「暗闇音楽会」

公演 2023年11月5日(日) ①17:30 ②19:30 各回1時間程度 40名様限定

会場 ダイアログ・ダイバーシティミュージアム(竹芝)

出演者 金子鈴太郎(チェロ)



■ Music Dialogue の活動は、皆様からのご支援により支えられております。

継続的にご寄付を頂いている以下の方々に、心より感謝申し上げます。

椿紅子 様・野口博司 様・福羽泰紀 様・安瀨聖司 様・高橋達史 様・出石直 様・河本宏子 様、
貴田守亮 様・小出保之 様・三尾徹 様・田川利一 様・榊原福記 様・最上沙紀子 様(順不同)





Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2023-2024 Vol.2

めぐろパーシモンホール 小ホール

2023年9月15日（金）開演 19:00

◆ヨハネス・ブラームス ピアノ三重奏曲第3番 八短調 Op.101

第1楽章 Allegro energico

第2楽章 Presto non assai

第3楽章 Andante grazioso

第4楽章 Allegro molto

太田糸音（ピアノ） 矢野玲子（ヴァイオリン） 柴田花音（チェロ）

◆ガブリエル・フォーレ ピアノ四重奏曲第2番 ト短調 Op.45

第1楽章 Allegro molto moderato

第2楽章 Allegro molto

第3楽章 Adagio non troppo

第4楽章 Allegro molto

太田糸音（ピアノ） 矢野玲子（ヴァイオリン） 大山平一郎（ヴィオラ） 柴田花音（チェロ）

休憩

◆お客様とのダイアログ

※演奏者に聞いてみたいことなどありましたら、以下の方法か QR コードから
ぜひ質問や感想を送信してください。



インターネットにて「sli.do」と検索→イベントコード「**3746744**」を入力

[主催] 一般社団法人 Music Dialogue

[共催] 公益財団法人目黒区芸術文化振興財団

[協力] 日本音楽財団（日本財団助成事業）

[助成] 芸術文化振興基金



芸術文化振興基金

作品解説

◆ヨハネス・ブラームス(1833-1897) ピアノ三重奏曲第3番 八短調 Op.101 (1886)

ブラームスの音楽は“重い”という表現をよく耳にする。その“重い”の一言には温かさ、深み、湿っぽさ……様々な意味合いが含まれているだろう。気難しく見えながら滲み出る情愛深さ、ユーモアを持つこの人物を紐解いていくと、心の中で穏やかに微笑んでくれているように感じられないだろうか。

ハンブルク生まれのブラームスは、スイスに住む親しい友人の薦めを受けて、53歳の夏をスイスのインターラーケンにあるトゥーン湖畔で長く過ごした。透明度の高く青い水面、周囲には壮大なアルプスの山々がそびえ、賑わいのある社交場からなるこの地を、作家アンデルセンは“アルプスのパリ”と賛美。3年の夏にわたる滞在はブラームスの創作力を刺激したに違いない。チェロ・ソナタ第2番、ヴァイオリン・ソナタ第2～3番、ヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲もこの地で書かれた。ブラームスの音楽には、深い親交を築いた芸術仲間との関係性や思い出、心情が映し出されているのかもしれない。

この三重奏曲も、完成後まもなく友人邸で私的に初演された。雄大な滝のような躍動感を持つ第1楽章に対し、第2楽章で常に弱音器を付けた弦はくぐもった音で演奏され、終始緊迫感がある。明るい二重奏が導き出す第3楽章は、二拍子と三拍子が入り混じり、ピアノと弦が共に弾く箇所が少ない。第4楽章では途中の遅くなるテンポが足取りの重さを感じさせるが、再びみなぎる活力と共に華々しいフィナーレとなる。

(解説：太田糸音)

◆ガブリエル・フォーレ(1845-1924)：ピアノ四重奏曲 第2番 卜短調 作品45 (1885-86)

1900年前後のパリでは、サン＝サーンスのような保守派と若いドビュッシーやラヴェルのような革新派が価値観の違いからぶつかりあっていたが、双方の作曲家を繋ぐ立場にあったのがラヴェルの師でもあるフォーレである。10歳年上のサン＝サーンスの後に続くように、1870年代から室内楽を手がけはじめ、1877年に初演されたヴァイオリン・ソナタ第1番、1880年に初演されたピアノ四重奏曲第1番が成功を収めたことで、作曲家としての評判を高めていった。

四重奏の第1番が1884年にやっと出版されるとフォーレは早速、第2番の構想にとりかかる。それまで以上に楽曲の構成方法や転調の手法をセザール・フランクから学ぶことで、作品を深化させていったようだ。核となるのは第1楽章冒頭で弦楽器が力強く歌うメロディと、展開部のはじまりでヴィオラとチェロが優しく奏でる穏やかなメロディ。これらが姿を少しずつ変えながら、全4楽章で登場してゆく。なお第3楽章の冒頭でピアノが奏でるフレーズは、幼き日に耳にした遠くから響いてきた夕刻の鐘を描いているという。

(解説：小室敬幸)

演奏者プロフィール



©MASAKI KONO

太田 糸音 OTA Shion 【ピアノ】

仙台国際音楽コンクール第 3 位をはじめ、シドニー国際ピアノコンクール、マルタ国際ピアノコンクール、浜松国際ピアノアカデミーコンクール等で入賞を果たす。2018 年度 CHANEL Pygmalion Days アーティスト。ベルリン・ドイツ交響楽団等、多数のオーケストラと共演。メディア出演や新曲初演、室内楽での活躍も広がっている。

東京音楽大学を 20 歳で早期卒業。名古屋芸術大学大学院を経てベルリン芸術大学に在学している。横山幸雄、ビョルン・レーマン、高橋礼恵の各氏に師事。ホームページ <https://www.shion-ota.com>



矢野 玲子 YANO Ryoko 【ヴァイオリン】

東京芸術大学を経て、フランス政府給費生としてパリ国立高等音楽院入学。ティボール・ヴァルガ国際コンクール優勝及び新曲特別賞受賞、メットローの協奏曲第 3 番を世界初演、50 ヶ国で放映された。ジュネーヴ国際コンクール最高位、ヨーロッパ各地への演奏会に招待された。これまでに、ブランデンブルグ＝フランクフルト国立管弦楽団、スイス・ロマン管弦楽団、小泉和裕指揮・東京都交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、アルミンク指揮・新日本フィルハーモニー交響楽団、小林研一郎指揮・日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートなどに出演。シャネル・ピグマリオン・デイズ 2008 アーティスト。Music Dialogue アーティスト。2017 年にルクセンブルク・フィルハーモニー管弦楽団の第二ソリストに就任。



大山 平一郎 OHYAMA Heiichiro 【ヴィオラ】

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972 年マールボロ音楽祭にヴィオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシャ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973 年カリフォルニア大学助教授に就任。1979 年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987 年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project（米国サンタ・バーバラ）音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズ

のアーティストック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。